

効果的な院内教育を目指して

～シミュレーション教育の実践～



兵庫医科大学 医療人育成センター

長嶋 智美 さん

看護師
集中ケア認定看護師

比留間 ゆき乃 さん

看護師
看護部兼務

平山 亜矢子 さん

看護師

医療人育成センターは兵庫医科大学(医学部)、兵庫医療大学(薬学部、看護学部、リハビリテーション学部)の2大学と連携し、兵庫医科大学病院の臨床教育を包括的に推進、実施体制を整備するために設置された組織です。医療専門職者の卒前・卒後教育、現任教育を行なっています。現在は専任者2名と看護部との兼任者1名の3名体制で活動しています。

Q1: 医療人育成センターではどのような教育を行なわれていますか?

看護部にも教育担当がありますが、違いや特長について教えてください。

看護部では、ノバイス(初心者)から管理者教育までキャリアラダーシステムに沿った教育プログラムを実施しています。医療人育成センターでは、新入職者向けの初期研修をはじめとする技術および知識や倫理面の指導・育成や精神面でのサポート、全職種を対象としたキャリア教育を行なっています。今年度の大学の中期事業計画において、医療人育成の強化という目標に則りキャリア教育に注力していくことが決定されました。当センターならではの取り組みとして、より実践的で臨床に即した研修を提供すべくシミュレーション教育に特化した活動を本格化しました。

Q2: 今年度より注力している、シミュレーション教育について教えてください。

シミュレーション教育は平成24年度から開始しました。シミュレーション教育は臨床場面を模擬的に再現した学習環境の中で、状況に応じて自ら考え行動することを通して学びを得ることを目的とした研修です。ラダー教育の一環として、対象とする職種を全職種に拡大し、希望する内容の研修に自ら手を挙げて参加することが可能です。また、1回につき6名の少人数で実施するところも大きな特徴です。今年度は「医療安全」を大きなテーマとして、4月～9月の前期はCVC管理、気管吸引や輸液の医療安全に関わる内容で実習を実施し、後期においては前期の応用編に加え、チームトレーニング、ノンテクニカルスキルといったチーム医療の推進を目的としたテーマを設定しています。参加者は事前にE-ラーニングや資料などで事前学習を行った上で参加することが必須条件です。中にはタスクトレーニングなどの事前課題を与えられ、1日かけて行なうハードな内容のものもあります。少人数だからこそ出来る高度な研修を提供する一方で、参加者にも相応の準備が求められます。研修を開始してからの参加人数は看護職員、メディカルスタッフを含め延べ235名となりました。昨年度は看護師対象の研修が大半を占めた部分もありましたが、今年度からより多くの職種に、回数も増やし多職種との連携を基盤に、職種の垣根を越えたセンターだからこそ、シミュレーション教育を通して、チーム医療の推進のために教育的サポートとして取り組んでいきたいと考えています。

Q3：医療人育成センターではどのような教育を行なわれていますか？ 看護部にも教育担当がありますが、違いや特長について教えてください。

教育に関して言えば、以前は院内で作成したマニュアルや製品資料等を活用し研修を行なっていました。現在の輸液ラインに変更してからは、メーカーからの提案もあり、ノバイスの導入研修からベテランへのフォローアップ研修までメーカーを巻き込んだ研修を行なっています。メーカーの持つ知識やノウハウを有効に生かし、より多角的且つ効果的に研修を受けられる仕組みを作っています。手技DVDによるマニュアルの可視化や、ブラックライトと蛍光塗料を用いたデバイスの消毒手技教育などは当院にとっても新しい取り組みで、現場の職員からも実践的との評価を頂いています。



Q4：病院での教育にメーカーも携わるることについてどう思われますか？ またどのようなメリットがありますか？

新人看護職員研修の初期研修では、所々にメーカーの介入を受けて研修を行なっています。当然ながら、製品に関する知識や医療機器の適正使用に関する知識はメーカーのほうが豊富です。資料作りに関しても一から全て作成するより、アップデートされたガイドラインの引用や根拠となるデータの出典元が正しく明記されている資料を活用することで、より良い内容のものが出来上がる場合も有ります。メーカーが院内教育に参画することは、メーカーにとっても適正使用の啓蒙にもなります。その効果もあり、最近では輸液ラインのメーカーに限らず他製品のメーカーへもこちらから協力を依頼しています。これまでのやり方を見直し、画一的でない教育を提供することも一つの方法ではないかと思えます。

Q5：院内研修に関して、今後の課題・メッセージなどがあればお教え下さい。

長嶋さん 当施設シミュレーション教育はまだ始まったばかりですが、より多くの皆さんに積極的に参加頂きたいと思っています。看護部はじめ他部門、多職種との連携を図りながら活動を広げ、臨床でのキャリアアップを図る一つの手段として根付かせていければと思います。当センターの役割は臨床や教育現場の様々な課題を発見し、解決の為にサポートする人的物的リソースとなることです。また、多職種が連携したチーム医療の推進や質の向上への一助となるよう教育面でのサポートに取り組んでいきたいと思っています。さらに、今後は、シミュレーション教育の効果をどのように測定するか、評価基準の検討も行なっていきたいと考えています。

平山さん 新人教育をはじめとして、これまでの教育は受身の部分が多かったのではないかと思います。実際の現場では自ら考え主体的に行動することが求められます。シミュレーション教育を通じて、自ら不足している知識や苦手とする部分を理解し、習得、克服しようとするのが実践能力を高めていくことにつながると考えています。そのためには皆さんの意識改革も必要ですが、私たちも主体的に学べる環境づくりを提供していきたいと考えております。

比留間さん 当センターの教育を通じ、臨床の教育として実践出来るファシリテーターを養成していきたいと考えています。私自身、看護部の新人看護師教育担当として兼務する中で、どのような教育プログラムが臨床でのパフォーマンスに上手く結び付けることが出来るか模索しています。理想は、シミュレーション教育が各部署に根付き、自発的な取り組みとして実施されていくことです。我々は臨床の助けが必要な場面でサポートする、そのような関係を築いていければと思います。

※掲載内容は2014年12月時点のものです。

お問い合わせ先
日本コヴィディエン株式会社
Tel : 0120-917-205


Cardinal Health
Essential to care™

cardinalhealth.com